



西南学院大学 図書館報

No.106

1986(昭和61)年3月24日発行

〒814

福岡市早良区西新6丁目2番92号

西南学院大学図書館



「思い出の本 思い出の人」

商学部教授 田代義範

あれは昭和23年晩春のことであったと思う。博多の街もバラックに近い建物であったとはいえ、かなり復興し、樹々の緑も濃さを増して揺蕩うていた。

旧制高校生であった私は、博多駅(旧)から呉服町の方へ歩いていた。間口一間半位はあったろうか。とある右側の小さな書店をのぞいてみた。数少ないザラ紙の本の並ぶなかに、柳田謙十郎の著書があった。少し読んでみると、倫理学の講義で聞き覚えのある文章が次々眼に入る。

〈これだ、講義の種本は…〉と胸はずむ思いがした。少々鼻につく自慢話の後始められる〇教授の講義は、とりとめもなく、何を言わんとするのかよく分からず、弱っていた。この本は級友の間で大いに歓迎されて廻し読みされ、ようとして行方は知れず、残念ながら本のタイトルも思い出せない。

33年春私は東京の某大学で教壇に立つことになるが、この時いかつい顔をした白髪の教授がハンチングを被り、ステッキ片手に、悠然と校門を入ってくるのに出合った。挨拶をしたが、傲岸な面持ちで何の反応もなく、〈変なオッサンだな〉と思った。それは非常勤の牧野純夫教授だった。翌々春よりS大学をやめて専任となり、同じ学部で顔を合わせるようになった。

偏屈で人を寄せつけない変わり者と思っていた先生が、間もなく意気相投じ、何かと意見を求めるようになった。時々電話がきて、新宿高野フルーツ前で落ちあい、喫茶店で時を忘れて

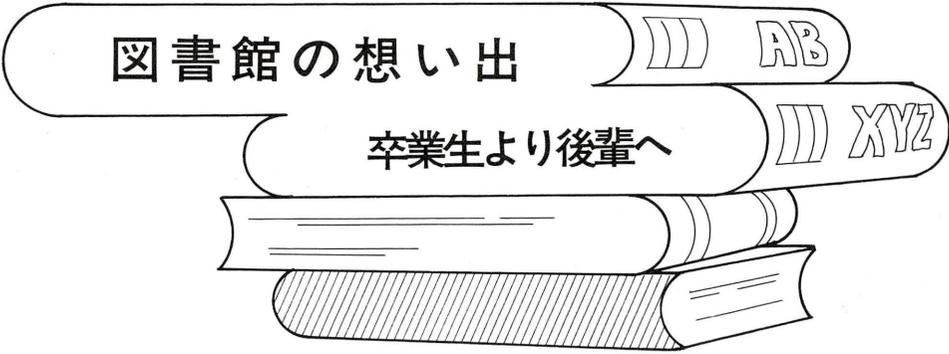
談笑した。またある時、先生が大きな煎餅を拳でつぶして食べるまではよかったが、紙の上の屑を一カ所に集めて口にもっていったのには驚いた。かつて東大教授で高名な刑法学者・牧野英一氏の御曹子であっただけに。先生は恬然として、豪快に笑い、小心で堅物のN教授の禿げ具合を、「人徳の士の禿げ方だ」といっては揶揄していた。

その後『ドルの歴史』で毎日出版文化賞を受賞、神楽坂の料亭で祝宴を催した。思想的に折り合わずして毎日新聞社を首になり、学者に転じた人だったが、受賞式では、新聞社のトップ連が自分の顔をまともに見れずにいた、と痛快がっていた。惜しいことに、程なく黄泉の国へと旅立たれた。

この頃、P. ドラッカーの技術論的著作の邦訳書は、それこそ洛陽の紙価を高からしめていた。だが私は、それにあきたりぬものを感じていた。偶々、彼の第二作『産業人の未来』にめぐり合い、訳書を出版するに及んで、彼の学問の深さ、博識と透徹した洞察力、建設的な提言、ファシズム批判等に惹かれていった。爾来、私は自分の立場を堅持しつつも、彼の学問全体に惚れこみ、今春『ドラッカーの管理思想』なる著書を上梓して、一応の区切りをつけることにした。

世は移ろい、時は流れゆく。「一期一会」をかみしめ、そしてたいせつにしてゆきたい。

(経営学総論・経営管理総論)



図書館の思い出

卒業生より後輩へ

文学部児童教育学科

王 珮 玲

初めて西南に来た時、大いに驚いたことは、その五階建ての図書館であった。確かに、この大きくて明るく、蔵書豊富、空気調節齐全、清潔なところで勉強し研究されることは、さいわいである。

一般に図書館へ行くおもな目的は、勉強と言えるだろう。間違いなく、その静かなふんい気は、勉強にとって、実にふさわしい環境である。しかし、図書館から獲得されるのは勉強だけではない。その豊富な蔵書も無価な宝物である。私自身の経験は、最初の一年は、ほとんど図書館で勉強しただけだが、次の年、ここで絶版になっていた「The Ladybird」(D. H. Lawrence 作)の翻訳本を見つけたほか、いろいろな資料、図書を調べたことにより、知識の浩瀚、学問の無極を本当に自分で感じ取って、味わって、追求してから、初めてその美しさを感じ得できると感じた。特に、卒業論文を書いた時に、こういう感じが強かった。それゆえ、大学生活3年のうちに、最も密接な関係を持っていたところは、ピアノ練習室以外、図書館であった。学問の営み、知識に対する追求は、教室での授業によるだけではなく、学習活動も、単に指定された習題(宿題)をするだけではない。

充実な大学生活は、図書館を善用することも含めている。

従って、授業、その他の活動とともに、どういうふうに図書館を利用するかということも、大学生活の一つの重要な課題であろう。

文学部国際文化学科

栗 本 博 善

大学の図書館の利用には、大別して二つがあると思います。一つは学習の場としてであり、もう一つは文献を手に入れる場としてです。この両方にうまく図書館を利用されている尊敬すべき人達も僕は知っています。ところが僕はといえば、四年間を振り返ってみて、専ら後者の文献を手に入れる場としての利用が多かったと思います。もっとも大学に入った頃は、常連の人達が座席の定位置を占めている姿に憧れて、自らもそれを志したこともありましたが、静かな中でじっといすに座って一日を過ごすというのは、しょっちゅう机を離れては部屋の中をうろうろ歩き回る習慣のある僕には無理な事でした。

そうした訳で、主に文献を手に入れるために図書館を利用させて貰いましたが、これについては図書館員の方々に随分お世話になりました。館内の蔵書だけでなく、時には他大学のも

の、国会図書館のものまで取り寄せて頂き、特にある地方新聞に連載された記事については、半年以上にわたって図書館を通じてその新聞を頂くことができたのは思い出に残っています。

今年卒業で福岡を去りますが、また別の土地でこのような素敵な図書館に巡り会いたいと思います。

法学部法律学科

藤 佐 和 子

学校の図書館で本を選ぶと、私はすぐに、本の裏表紙を捲って、貸出しカードを取り出します。私は、このカードが大好きです。

最近の学校や市民図書館などでは、貸出し方法が簡略化され、このカードを用いない所が、多く、西南大の図書館で、このカードを目にした時、大変嬉しく又懐しく思いました。

そして、カードの中に、思いもかけぬ人の名前を見つたり、全集の一冊ずつを、後ろから開くと、その殆んどに同じ名前が記されてあったり、又は、一度借りた本のカードを見たり、そうしながらも、結局、本を選びきれずに、図書館を出ることも何度かありました。

昨年春、背表紙もボロボロで、何度も製本し直してある本で、中身はというと赤や黒の鉛筆やペンのアンダーラインの洪水の中に、「後輩諸君、目標目指して頑張れ」という内容の落書を見つけ、心強く、そして嬉しく思ったことがあります。何人もの人が、このページを捲ったことでしょう。

私は、学生時代の読書量は、決して多くありませんが、こうした図書館ならではの、本との出会いを、これからも大切にしたいと思っています。そして、後輩の皆さんも、図書館ならではの出会いを数多く経験してほしいと思います。

商学部経営学科

川 野 浩 章

快晴、講義終了後さて何をしようかとふと悩む。クラブの時間にはまだ早い。金はないが暇だけはあまる。そうだ図書館で昼寝でもするか、このいい加減な考えが私の人生を変えてくれたのであろうか。

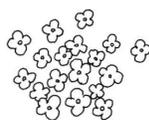
ここは冷暖房完備（かわいい学生のためにとの気くばりが多少ききすぎる時もあるのだが）静寂、邪魔はないと三拍子そろっているが、かといっていつも昼寝ばかりしているわけにはいけない。

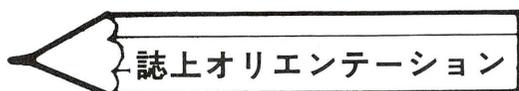
受付の方には「よく頑張られますネ」とプレッシャーをかけられる。「いい機会だし本でも開くか…」と考える。が、小生受験戦争から開放されてはや数年、まだ気合いが入らず。後日また受付にて「就職はどうされます。教員？、大変ですネでもこれくらい頑張っておられれば大丈夫ですよ。」うーむここで奮いたった小生若干21歳。連日試験へむけてのスパートとあいなる。

時にはずうずうしくも受付の方に広島の実家の方まで本のコピーを送って頂いたり、文房具を借りたり、活用できるものをフルに活用した。そうこうしているうちに4年めの夏。思い起こせば、あの快晴が小生の人生を変えたといってもやはり過言ではなかった。

後輩のみなさん人生はタイミング、自分の力であれ、そして偶然であれそのタイミングをつかんで下さい。

さあ今日も快晴、青空の下今開館です。





⑥

図書館の専門用語 その(3)

川上 由美子

今回は基礎知識をいくつかあげてみることにする。

① 配架

分類番号などに従って、書棚に本や雑誌を並べる作業。(本学図書館は、1日2回配架作業を行なっている。)

② 帯出証

図書貸出しカード。有効期間は4月1日から翌年3月末までとなっている。(卒業年次生は2月末まで。)

③ 製本

散逸を防いだり、利用し易くする等のために製本をする。

a) 雑誌における製本

雑誌の表紙を取り除き(表表紙を付ける場合もある)、発行順に並べ硬表紙(ハードカバー)を付け、本のようにする。

b) 図書における製本

古くなって破損した本など、破れた箇所を修理するとともに出版社製本の表紙を取り除き、製本の仕直しをする。再製本ともいう。

④ オープン open (開架閲覧室)と クローズ closed (閉架図書室・書庫)

オープンは、2階から4階まであり一般学生が入室できる閲覧室。

クローズは、許可を受けたものしか入室できない部屋。貴重書やオープンに並べることので

きなかった図書、雑誌などを配架している。入室はできないが、利用はできるので、“閉架図書閲覧票”に記入して2階カウンターに申し込むことになっている。図書は禁帯出以外の貸出しはできる。

⑤ バックナンバー (Back Numbers)

最新号より以前に発行された定期刊行物。

⑥ 一次資料・二次資料・三次資料

一次資料……図書、雑誌論文など。

二次資料……一次資料を探すための資料。

目録、書誌、索引などをいう。

三次資料……二次資料を探すための資料。

日本書誌の書誌などをいう。

⑦ 書誌確認

書誌の事項を確認することをいう。書誌の事項とは図書の場合、著者名(編集者名)・書名・出版地・出版社・発行年・頁数などをいう。

雑誌論文の場合は、収載雑誌名・著者名・論題・巻号数・発行年などをいう。

⑧ 欠本・除籍・発見図書

年に一度3月中旬に、在庫調査を実施し、その際行方のわからない図書を、不明図書として扱い、3年間見つからない場合は、欠本とし除籍(登録から抹消)にする。もし、除籍の事故処理をした後に図書が発見されたら、発見図書として再受入れをする。

(かわかみ ゆみこ：情報サービス課)



夜の図書館風景

梅津健吉

後期試験中の騒然とした雰囲気が出まり「今晚は」、「お疲れさん」と言葉を交し合う静かな館内となった。夜九時迄の開館が実施されて今年の十月で満九年になる。夜の時間帯はグループで利用することが目立つ。昔の縮刷新聞やその他の資料を要求し、話し合い乍ら問題を整理し纏めていく。声も高くなる時がある。此の様な事も夜の図書館であれば出来ると思う。

夜は又、特別利用者の利用が多くなる。卒業後、職に就き専門の事項に対し研修を深めていく者、又晝間はバイト等に就き目差す目的に向っての勉強、晝の疲れを越えて頑張る姿に声援を送りたい。学窓を出て幾年か過ぎ家庭をもち会社の中でも重要な地位にある方が利用される事もある。自分の子供達と同年齢の学生と机を並べて、資料を探し調べられる姿勢も夜間ならでは、と思う。卒業後2、3年を過ぎて利用する者もいる。懐かしく話合う時に学生時代と変わった半面を見出す事がある。「もっと勉強しとけば良かった」皆、同一の言葉が出る。話の内容や、考え等に成長しつつ、ある事を覚える。此の様な事からも又夜の一齣である。

三、四階が冷房がない時勉強している学生がいた。「二階が冷しいよ」と言ったら「公務員

試験の受験場は冷房が無いから今から鍛えています」と、笑い乍ら言葉が返って来た。一次二次の試験が終わり暫くして「就職決定しました。夜迄勉強することが出来て有難うございました」とお礼を言った時の顔が忘れる事が出来ない。合格した事は、本人の努力の結果であるのに、此の言葉は夜勤務する者にとっても喜びである。彼は今、宮崎県庁に勤めている。

四月は新学期の月である。ある年の入学式の夜新入生が来た。萩市近郊の出身との事、館内の事等説明している内に親しみを覚えたのか、毎日の様に利用し、帰る時必ず雑談を交す様になった。彼が卒業の年、私立・県立の高校のどちらかに就職をと、相談を受けた事がある。話合った末、君の決定次第と言った。彼は現在県立の教壇に立っている。

寒い所は苦手と云った長崎出身の院生は北海道に、陶磁器類に造詣が深かった院生は岡山に先生として勤めている。此の外、多くの学生達と僅かな時の会話に、勉強で疲れた軀を休める事が出来、明日への活力ともなればとも思う「夜の図書館の風景」である。

(うめづ けんきち：情報サービス課・閲覧係)

欧米の図書館事情

海外大学経営セミナーに参加して

刀 根 淳

欧米の大学図書館をみて印象に残ったことの幾つかを報告しよう。

クレアモント大学連合 (米国)

この大学は6つの独立した私立大学の集合体として設立されたユニークな形態をもっている。

この独自のスタイルのなかでの図書館事情は分野別19の図書館のあるなかに、中央図書館があり、分散と集中管理方式との微妙なバランスのもとに、協力を前提とした運営が、かろうじて保たれているようであった。

予算編成および配分、資料の収集計画など当然問題点が多い。確かに分割は発展の歴史の結果ともみてよいが、大学の規模にもとづく適正な管理が、大学図書館の重要課題であることを痛感させられた。またアメリカの大学図書館がわが国と違うところは、図書館の運営資金であろう。この大学の個々のカレッジ設立時の図書館は、カーネギー財団および特定の財団、個人等の資金提供が殆んどであり、現在の年間予算(320万ドル)の財源は、各カレッジの資金、図書館自体の収入、および外部よりの特定寄付金といった具合に図書館の積極的資金活動がともなっていることである。

イエール大学 (米国)

蔵書880万冊だから他はおして知るべしで、コレクション20万点、地図35万枚等。

一方、図書館のほんの一部をみたが、格調高い建物のなかの職員の執務室は、暗く、狭く、古い伝統に息づく職人の仕事場をみる思いがして、米国の巨大なエネルギー機構の一側面にふれた。

ノースウエスタン大学 (米国)

日本の大学では考えられない、アメリカならではの運営上の特色がある。

1. 館長の重要職責に資金あつめがあり、3名の専任者を置いて、現に270万ドルの募金活動をした。

2. 機械化が進んでおり、独自に開発したソフトの販売(「ノータス」の名称で、米国の40大学で稼動中)による年間収入が、なんと300万ドルもある。

3. 図書館職員200名のうち、修士号所有者が80名。電算機器の技術者が30名もいる。

シェフィールド大学 (米国)

この大学は日本研究で有名。現在、日本研究所所属の学生が101名。狭い資料室、粗末な書架に、日本書籍だけが並んでいる光景をみて、外国旅行者としての或る種の安らぎを覚える。

万国共通の書架、机、椅子のなかで、図書がもしかたず雰囲気は驚くほど敏感に反応した。

(とね じゅん：図書館事務次長)



図書館の思い出

杉本善夫

図書館に勤めさせていただいて足掛37年、この3月31日で定年を迎えることになった。思えば長くもあり又短かくも感じているこのごろであるが、人生の大半をこの職場一本に働かせていただき、望外の仕合せで感謝であった。

面白いこと気になることも澤山あったが、差障りがあるといけないので、ま、この位はというところで書いてみたい。館報100号にも書いたので若干重複のお許しを願うことにして、昭和24年より28年位の話を書いてみたいと思う。

思い出、その1、正門の向い側に高校へ通ずるゆるやかなスロープがあるが、その真上に「通りの間」と稱していた図書館の事務室があったところ、冬期はまだ石炭ストーブの時代で新米の私は仕事の合間をみては火力調節に気をくばっていた。ときどき逆風で事務室は煤や灰だらけになったり煙突掃除等も手伝った。今思うと楽しい？思い出の一つとなった。

その2、昔は室内照明も今のように明るくなく書庫にはうす暗い電球がところどころにぶら下

がっていた。階段も非常に気をつかい乍ら上り下りしていたが、雨天のときはさらに暗く新しく採用された女性達に男性職員が書庫の階段は何段あるか知っているかとき、雨の日は一段少なくなっているよと脅して喜んでいたこともあった。

その3、今学院史編集室におられる田口氏が図書館に勤務されていた頃、目録複製は和漢書は手書き、洋書は英文タイプでやっていたが、2人で1日何枚位洋書目録の複製が出来るか競争した事があった。田口氏は語学力に物を言わせ約104枚位、私はピアノを少しやっていたので指の速度で張り合ったが、僅か数枚及ばず残念に思った事もあった。あと一週間余りで図書館を去る日がくるが淋しい気持ちと共にほっとしている。愚にもつかぬことを書いてしまったが、数年後コンピュータによるトータル・システムの完成を見るのが楽しみである。

(すぎもと よしお：整理課・課長補佐)

杉本氏の定年ご退職に際して

今永義純

杉本さん、定年ご退職おめでとうございます。この3月で定年をお迎えになられると、足掛け37年間の西南学院でのお勤めだったということです。この間図書館一筋の、今日の情報化社会における図書館のあるべき姿の礎を築いていただきました。

氏に初めてお会いした時、なんといっても、

その身の動かし方の早いのに、まず驚かされました。同僚の間では、ですから愛称をこめて、月光仮面と呼ばれていたようでした。

氏は熱心なクリスチャンであられ、仕事を通してのその言動は、いつもひかえ目で、縁の下の力持ちに徹するという風にもえました。

本館には、現在約42万冊の蔵書があり、図書

館内だけでも、書庫(7層)、開架閲覧室、閉架図書室、資料室等図書が利用面その他を考慮して配架しております。氏は、館内の配架場所は勿論のこと、大学院、学研等にも一部図書を貸出しているが、42万冊の図書について、一冊、一冊の所蔵場所までわかっているのには、いつも感心させられました。

生き字引的な存在であった氏のご退職後は、

残された我々が十分その精神を受け継いで、更に発展させ得るかどうか不安である。しかし精一杯努力をして、情報化時代の図書館にふさわしい在り方を模索して行きたい。

永い間のお勤めご苦勞さまでした。今後の益々のご健康とご幸福をお祈り申し上げます。

さようなら!

(いまなが よしずみ: 情報サービス課長)

☆ ニュース・お知らせ ☆

〈図書館委員会〉

60.11.21 ① 昭和61年度図書館予算の申請について

② 図書館業務の電算化実施について

60.12.9 ① 図書館業務の電算化実施について(継続)

61.2.26 ① 一般図書費の配分について

〈研修・出張〉

○ 昭和60年度全国図書館大会

60.10.30~11.1 於: 仙台市
川島館長、刀根事務次長出席

○ 昭和60年度大学図書館職員講習会

60.11.5~8 於: 大阪大学
大羽司書出席

○ 第5回東大文献情報センター・シンポジウム

60.11.29 於: 大阪大学
杉野司書出席

○ 第6回大学図書館研究集会

60.12.12~14 於: 国立教育会館(筑波分館) 品川司書出席

○ 図書館業務電算化検討のための他大学図書館等の見学研修

61.1.10 見学先: 東大文献情報センター、東京工業大学図書館
今永課長、杉野司書出席

○ 福岡県・佐賀県大学図書館協議会

福岡地区研究会

61.1.30 於: 福岡女子大学

板谷、吉村、平田司書補出席

○ 図書館業務電算化検討のための他大学図書館見学研修

60.2.3~5 見学先: 関西大学、京都大学、同志社大学、兵庫教育大学の各図書館
荒川係長、杉野司書、品川司書出席

告知板

○ 春休み中の開館

2月7日(金)~4月10日(木)の春休み中も、平常通り9時~21時まで開館します。但し、学習室は閉室します。

○ 春休み長期貸出し

1月28日(火)~4月22日(火)

(但し、卒業予定者は2月末日まで)

対象および冊数 学部学生 } 5冊以内
専攻科生 }

留学生別科生 10冊以内

大学院生 20冊以内

○ 卒業後の図書館利用の手続き

本学卒業生は、社会に出てからも職務上の研究・調査など、あるいは自己の教養・知識向上のため本学図書館を利用することができます。利用希望者は特別利用者規則に従ってご利用ください。

特別利用者証発行については、次のものを提出しなければなりません。

- | | |
|-----------------|------|
| ① 特別利用許可願(本館備付) | 1通 |
| ② 卒業証明書 | 1通 |
| ③ 証明書用写真(3×4cm) | 1葉 |
| ④ 印鑑 | |
| ⑤ 手続料金(1ヵ月) | 100円 |

* 入館、貸出し手続きは在学中と変わりませんが、貸出し冊数および期間は年間(休暇中を含め)を通じて3冊、11日以内です。